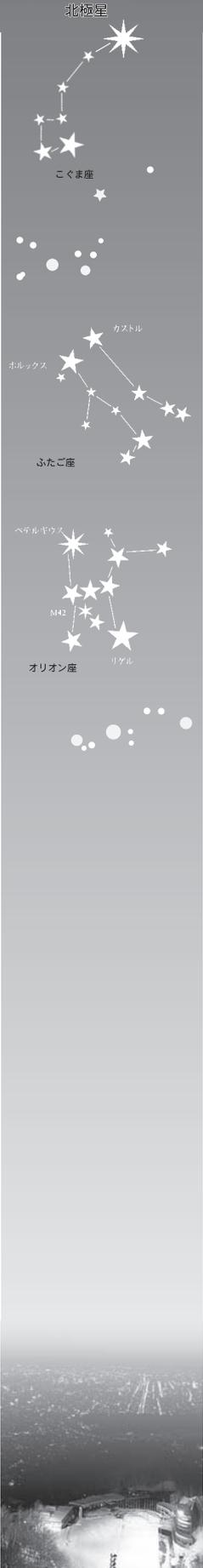
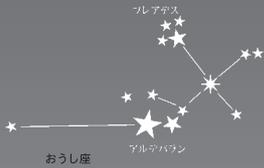


ポラリスを仰ぐ北の大地から



地方の医師は困っています

岩内古宇郡医師会 会長 北山 秀

最近一番困ったのは、岩宇地区で唯一の病院である岩内協会病院が救急受け入れを休止したことでした。この時期は入院が必要な患者さんは倶知安や小樽、札幌の病院に行ってもらうしかなく、負担は大きかったと思います。

その原因は常勤医が3人まで減ったためでした。岩宇地区はかなり前から人口減少が始まっていて、それに伴って医師数も減っていたと思いますが、研修医制度が変わり、内科医師の派遣がなくなったのが決定的だったと思います。この後は医師を募集する形になる訳ですが、当直をすることが義務となると採用が決まらないことも多いようです。来てくれる医師もキャリアの後半を地域医療に貢献したいと考える方が多く年齢は高めです。人数が少ないと当直回数も多くなりますし、専門以外の患者さんも診なければならず、負担は大きく長く続かない事もあるようです。現在は24時間救急体制を再開していますが医師数は十分ではなく、医師としての使命感で頑張っているだけです。国には何らかの地方医療に対する救済策を考えてもらいたいと思います。研修医制度変更が状況を悪化させたきっかけなのですから。

今後始まる地域医療構想ですが、あれって制約つきの都道府県への丸なげじゃないですか？

お金を用意しましたが限りがあるので都道府県で必要なことを考えて取り合ってください。それと高額のベッドが多すぎるので二次医療圏でベッド数のバランスを考えてください。協議会にはいろいろな立場の人を入れてください。どこからも文句が出ないようにとしか私には聞こえません。集約化も求められていますし、責任逃れの地方切り捨てじゃないですか？とても不安です。結局医療費を含む社会保障費を抑制したいという事だと思います。

同門会誌を読んで

余市医師会 会長 小嶋 研一

私は北大第三内科消化器科の同門会員です。今年の4月の同門会誌で札幌市医師会理事白石区支部K先生の寄稿「医師会の活動について」を読ませていただきました。K先生の寄稿は同門の大学で研究されている先生方や三内入局後、地方の病院で研修や地域医療に貢献している若手の先生方を念頭に入れ記載なされました。K先生自身も10年前までは医師会の事は全く分からなかったそうです。

御自身が医師会活動を行うようになって、札幌市医師会の事業は、医師会員のボランティア的活動によって行われていること。医師会は札幌市より多種多様な厚生事業の委託があり、地域の保健、医療、介護、福祉また救急医療体制などについて、医師会の活動を分かりやすく説明されており、

医師会の事業として行政への働きかけも重要で、郡市医師会から道医師会、さらに上部団体である日本医師会は厚生行政に大きな役割をなしており、診療報酬の改定、消費税問題、国民皆保険の維持などについて、国に対していろいろ提言していることなどを説明して、少しでも多くの先生が医師会に関心を持っていただき、入会してもらいたいとの内容でありました。医師会員増強策の一つとして、道内三大学各同門会誌に同様な医師会活動についての寄稿が掲載されれば、若手の先生方の入会が増えるかもしれません。

同門会誌に投稿しましょう！